

臨床実習を経験して

歯学科6年 北 崎 浩 一

どうも、北崎と申します。自分のクラスは41人中男子が15人という画期的なクラスで、そのおかげか他学年にはないまとまり感と、助け合いの精神が根付いた俗に言う、ブレないクラスです。そしてみんなと経験した臨床実習は、1年が本当に早かったという印象です。

臨床実習にあたっては、患者様にご迷惑をかけないよう真剣に予習をし、頭の中でイメージしてから診療に臨むのですが、それでも緊張や焦りで戸惑うことも沢山ありました。そのような時もライターの先生にアドバイスしていただき、大変勉強になりました。その場その場で頭を働かせて判断し、臨機応変に対応していく力を身につければと感じました。実習の中で、根治やクラブリなどの補綴において、2症例目に入ると狭い口腔内ながら少し視野が広がり、頭の中でマニュアル以外の部分、つまり前回、先生に教えられたことや、自分で感じたことをフィードバックしながら、自分の力でより良い診療になるためにはどうした

らいいか、を考えることが重要だな、と感じました。

自分の診療では、根治が終わり、残存歯質があまりなかった歯にコアが入り、最終補綴物が入るという経過が非常にやりがいを感じました。見た目の問題だけではなく、機能の回復という点で患者様に携われたことが非常に有意義でしたし、患者様が満足された様子を拝見して、「ありがとう」といわれた時の達成感は何事にも変え難いものだと感じました。

最後に、学生が自主性を持って、実際の治療ができるという貴重な機会を与えてくださる患者様たち、諸先生方に感謝するとともに、この気持ちをこれからもずっと忘れずに成長していかなくてはと感じています。これまで学んできた知識や技術をしっかり身につけ、今後さらに多くの患者様に本当の意味で「ありがとう」と言われるような歯科医師になれるよう研鑽していきたいと思えます。



総合診療室を経験して

歯学科6年 立花美和

昨年の10月から総診での臨床実習が始まり、この原稿を書いているのは7月下旬。あと1週間で、学生生活最後の夏休みです。振り返ると、始まってから今まで、あっと言う間の9ヶ月でした。一言で感想を言うのなら、『とっても大変だったけど……楽しかった!』

今までの模型相手の実習とは違い、臨床実習では手順の一つ一つが重要で、責任が伴ってきます。失敗したらどうしようという不安や緊張から、はじめの頃は、ミラーを持つ手一つですら震えました。ポリクリやオスキーであれほど練習したはずの実技は、実際に患者様を目の前にしてみると、全く思い通りにいかないのです。そんな未熟な私に対して、患者様は「頑張って」「最初からできる人なんていないよ」と、笑顔で声をかけてくださいました。その一言で、どれだけ救われたことでしょうか。自分の至らない点を反省すると同時に、もっと経験を積んで、患者様に喜ばれるような診療を行いたいと思うようになりました。

5年生までで一通りの勉強は終わっているとは

いえ、実際に臨床を経験してみると、分からないことだらけです。患者様の口腔内の状況も千差万別で、教科書通りにはいきません。原因は？ 治療の優先順位は？ 悩めば悩むほど、新たな問題が出てきます。そんな時に、アドバイスをくださる先生方や、一緒に知恵を持ち寄って考えてくれる同級生達の存在は本当に心強かったです。

技術や知識の少なさから失敗することも多く、反省しきりの毎日でしたが、同時に吸収することも多かったです。今まで平面的に学んできた知識が、どんどん形を成して立体的になっていくような、わくわくした感覚を味わうことができました。

患者様は勿論のこと、本当に多くの人に支えられてきた実習だったと思います。

この場を借りて、お世話になった全ての方々へ心よりお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。皆様のご厚意に報いることのできるよう、頼りがいのある歯科医師を目指して、努力していきたいと思えます。

臨床実習を経験して

歯学科6年 岩村千尋

入学した頃は、「6年間か……長いな」と思っていました。気付くとあっという間に6年間が過ぎようとしています。1年の頃、早期臨床実習の患者役実習で6年生に診ていただいたとき、6年生ってカッコいいな、私もこんな6年生になれたらいいなあと思っていました。つい先日、その早期臨床実習の術者役（私があこがれていた6年生役）が終わり、自分の憧れの6年生に近づくことができたと問われると即答できませんが、1年生が5年後、自分もこんな実習をするのかと、イメージするのにお役に立てたのではないかと思います。

この“早期”ではない臨床実習についてですが、学生が指導医のもと患者様の治療をさせていただけるという、すばらしい実習です。このような実習を学生のうちからさせていただける大学は全国でも数少ないということで、本当にありがたいなと常々感じております。そのような、臨床に触れさせていただけるまたとないチャンスを無駄にしないよう、しっかりと予習をして当日に臨むわけですが、当然、知識を詰め込むだけでは実際の臨床ではなかなかうまく“手”が動きません。この

ため、私は今まで何度も患者様と先生、友人たちにご迷惑をおかけしました。操作に時間がかかりすぎて患者様を疲れさせてしまう、しっかりと予習したはずなのに結局先生の力をお借りして一瞬で終わってしまう、次の患者様の約束時間まで時間がなく、片づけを友達に手伝ってもらう……など、今考えると自分は本当に皆様のご協力のおかげで生きていられるのだなと感じます。

このように、臨床実習を残りとわずかに控えた6年生とは思えないほどの成長のなさで、なんだか書いてると悲しくなってきましたが、私は6年間で今の臨床実習が一番充実していて楽しいです。技工やレポートに追われ、つらい事もありますが、いつも友達に励まされ、またやる気もらっています。みんな本当にありがとう。

最後になりましたが、いつもキャンセルせずに通ってくださる患者様方と、いつもお世話になっている先生方に感謝いたします。これからもよろしく願いいたします。そしてクラスの皆さん、いつもどうもありがとう。学生生活も残りわずかですが、卒後もぜひよろしくお願い致します。



5年生だより

歯学科5年 富 樫 祐 介

こんにちは。5年バド部の富樫祐介です。
あみだくじです。

うちのクラスには私より真面目で、原稿を書くに相応しい人材が溢れていると思うのですが……。後輩の方々にとってどれだけ役に立つかわからない不安ですが、とりあえず、テーマが「去年を振り返って今年について」ということなので去年を振り返りつつ書いていこうと思います。

4年での講義は、座学では臨床専門科目がメインで、他に隣接医学などを学んでいきます。臨床専門科目は、実際の臨床の現場に出ている先生方の講義なので、本や医学雑誌からでは得られない話なども聞けるチャンスです。まだ臨床の現場に立ったことのない未熟な私が言うのも変なのですが、本や医学雑誌で得られる二次的情報よりも、実際に耳にする、直接人から聞ける一次的情報の方が、将来きっと役に立ち、実用的な情報になるように思います(教科書から学ぶことも、もちろんたくさんありますが)。

隣接医学は、どうせ歯科と関係の薄い勉強なんだろうな、なんて思っていたのですが、実際に講義を受けてみると面白くわかりやすく教えてくださる先生もいらっしや、興味を持って講義を受けることができました。5年のPBLなどでも役立つこともあるので、是非興味を持って臨みましょう。

実習は、歯冠修復学、欠損補綴学(FD、PD)、歯周病学、予防歯科学、歯科矯正学、歯周病学と盛りだくさんなカリキュラムとなっています。個人的感想ですが、実習は楽しかったです。楽しいという表現が正しいのかわかりませんが、練習して上手くなった時や、どのようにしたら上手くなるのか、もっと効率のよい方法はないのか、上手

い人はどのようにやっているのか、などと考えたりすることが楽しく感じられました。

5年前期での講義のメインはPBL、総合模型実習、統合科目、ポリクリです。

PBLは、実社会におけるケースを学習のきっかけとして、そこに潜む問題を拾い出し、少人数での討論により問題を解決する、といったものです。

総合模型実習は、5年後期から始まる臨床実習において求められる統合的な知識、技術を身につけたり、実際の患者様の診療計画の立案も含めた臨床を模擬的に訓練することが目的とされています。4年の時の実習と違って、患者様あつての診療計画であつたり治療であつたりするので、患者様にとって何が最善の診療計画なのか、治療なのかを考えることが難しく、とても大切なことなんだなと実感する実習です。実際、臨床の現場に出たら沢山悩む機会があると思いますが、きちんと問題に向き合って解決していき、患者様に貢献できる、喜んで頂ける歯科治療を行っていただきたいと思います。

沢山のものを見たい。沢山の写真を撮りたい。いろんなものを食べたい。いろんなお酒を飲みたい。沢山話したい。いろんな話聞きたい。色んな場所に行ってみたい。もう無理ってくらい走りたい。脱水なるくらい汗かきたい。腕があがらないくらい羽根打ちたい。息できないくらい泣いてみたい。腹がつるくらい笑いあいたい。大学で知り合った仲間とまだまだやり残していることが沢山ある気がします。

長いと思っていた大学生活6年間ですが、振り返ってみると本当にあっという間ですね。

残り短い大学生活ですが、支えてくれている人

に感謝し、人として、医療人として成長できるよ 大学生生活を共に謳歌しましょう。
うに日々生活していきたいと思います。みなさん、



4年生だより

～四年生になって～

歯学科4年 中 島 努

四年生になってから変わったことがたくさんあります。正確に言えば三年生の後期からになるのだが、ついに専門科目として歯のことについての詳しい学習が始まりました。

今までを振り返ると、一年生は教養科目、二、三年生は基礎科目とここに来るまで、ほとんど歯学部なのに歯学部らしい勉強をすることがなかったのですが、四年生になりほとんどが歯に関する勉強となり、いよいよ自分たちが将来なる歯科医師としての道を歩み始めたことが実感できるようになりました。そう思えるようになって初めて、「学ぶこと」に対するモチベーションが生まれ始めました。

この四年生という学年は歯に関することで1日が始まり、歯に関することで1日が終わっていくような気がします。座学では常に新しいことや、今まで学んできた基礎科目がここにきて歯科とつながり始め、毎日興味を持って聞くことができます。講義の内容も違う科目でも歯科領域であるためどの範囲でもカバーしている領域も多くあり、二、三年生とくらべ、テストは格段に楽になったように感じます。また実習ではインレー、クラウン、全部床義歯といろいろな技工物の制作が始まりました。これらを作ることは本当に難しいことばかりで、自分の未熟さを思い知らされますが、こうやって作っていたのか、こうするとうまくいくのかなど、新しい発見ができたりと楽しいことばかりです。一から自分で作ったものには愛着も生まれて完成に近づくにつれ、どうなるんだろうとわくわくすることもできます。今は技工操作が

メインですが、臨床の擬似体験もでき本当に参考になります。ただ、このように技工操作など臨床に近づくにつれ患者様を意識することが多くなりました。ひとつひとつの操作にもやはり時間がかかり、さらにその操作が本当にうまくいっているのか？自分が満足するものは時間をかけて作れても、患者様が満足するものを作れるのだろうか？ととても不安な気持ちになりますが、それと同時にそのためにも頑張ろうという気持ちが実習を通して強く現れるようになりました。

さらにこの他にも四年生はほとんどの部活で幹部学年となる学年でもあります。個人的なことを言うと私は硬式庭球部で主務という仕事をしていました。

この仕事ではほとんどがOBの先生方に部活の連絡となる手紙を送ったりと、地味で作業量も多い仕事でした。失敗もしてしまいましたが、こういった仕事を行ったことで、将来歯科医となった時に治療以外の庶務で活かせることができると思います。大変でしたが、良い経験ができたと思います。またこの他にも、部活では今年初めてデンタルにレギュラーとしてデンタルにも出ることができて本当に充実した部活動を送ることができました。

このように四年生は本当にこれまでの学生生活と一変して、より歯科医としての道に踏み込んでいく気がします。大変なことも多いですがそれ以上に楽しいことが多くより充実した日々をおくれる学年だと思っています。

3年生だより

～歯学部43期生の様子をまとめます…～

歯学科3年 相原 のぞみ
竹村 遥奈

今回、わたしたちがどのような学生生活を送っているかについて、わかりやすくまとめるようにと指示がありましたので、いくつかご紹介申し上げます。43期生は現在3年生です。この原稿を書いているのは8月15日の午後ですが、みな、思い思いに人生の夏休みを過ごしていることでしょう。

●お勉強に関して

〈2年生後期を思い出します…〉

2年生の後期は、講義が少ないのが特徴です。アルバイトに励む人が多かったように思います。男の子たちは、夜な夜な集ってはトランプやジェンガなどの室内遊戯をして時間を潰したことでしょう。また、冬休みは成人式を迎える人が多く、さっさと帰省してしまいます。

この時期、毎週金曜日の午後は五十嵐キャンパスで物理実験を行います。物理実験は、毎回実験内容と共同実験者が任意で決められており、ふだんコミュニケーションを欠いている学友と交友を深める良い契機となります。私たち43期生はこのような機会を経て大変仲の良いクラスを築くことに凶らずも成功しています。

〈3年生前期を振り返ります…〉

3年生の前期は、解剖実習の記憶によって塗りつぶされます。この実習は時間的拘束が長いため、学友同士は文字通り寝食を共にしました。ある時は解剖実習室を23時に退出し、翌日8時に再びみなさんにお会いしては「9時間ぶりww元気だった？」などと励ましあいました。学友同士はこの実習を通して、命の尊さと使命感を得る大変貴重な時間を過ごし、同時に相互に助けあう精神を学びました。解剖実習が一週間に3回あるという時間割は、2009年度限定のものでしたので、ご心配なく。



向かって(右)相原、(左)竹村

●行事に関して

〈運動会〉

運動会は、わたしたちのような大学生が日ごろの運動不足を解消すべく、いつも以上の実力を発揮して、体力を消耗しきる行事です。43期生は、運動会を最大限に楽しみましたが、同時に負傷者(骨折2名など)も続出し、複雑な心境で運動会を終えました。が、名誉の負傷ということでクラスの絆もより深まったに違いありません。

〈オールデンタル〉

オールデンタルは全国歯学生総合体育大会の通称で、運動系の部活動に所属する学生にとっては一大イベントです。毎年、全国の歯学生が開催地に集い、スポーツマンシップに則りつつも、他大学との交流を深めるという、社交的な場となりま



す。2009年は埼玉県や他の近県で行われましたが、2010年は西日本で行われる予定です。

●その他語りたいポイント

〈43期生の仲の良さ〉

わたしたち43期生は大変仲の良いクラスです。どういう縁があって、現在のメンバーがそろったのかわかりませんが、何かのイベントや団結力を見せつけなければならないような状況では、個人の強すぎる個性が突出しつつも、なんとなくまとまることができます。クラス幹事のGくんが、無理やりクラスをまとめていますが、みなそれに素直に従っています。

〈新潟の冬に鍋の会〉

新潟の冬は風が強く、湿った雪がまとわりついて大変不快です。こんな季節、どうしても外に出るのが億劫になりがちですが、わたしたちは学友同士で材料を持ち寄り、鍋をします。みな、自分のお椀と箸を持参します。こうして、外食にたよってばかりの食生活を見直したり、食費の節約を図ったりしています。ときどき、実家から送られてきたみかんを持ってきてくれる学友もいて、こたつに入っています。

〈浜コン〉

浜コンとは「浜辺コンパ」の略ですが、近所の海水浴場でバーベキューをしたり、花火をしたりして学生生活を謳歌します。こういうイベントの手配は、すべてGくんが滞りなく行ってくれます。2009年の浜コンでは、鹿児島県出身のOくん



が実家から届いた黒豚を振る舞ってくれ、みなで本当においしくいただきました。ありがとうございました。

最初は、「海に入る気はないな～」なんて言っているみなさんも、次第に童心に帰り、最終的にはみんなで手をつないで後期の抱負を叫びつつ海に飛び込みました。

少しはわたしたちの生活の様子を理解していただけたでしょうか。4年制の大学に通っている学生の様子とは、また違うのかもしれませんが、もしかしたら、わたしたちのようにクラス単位で講義を受けたり、活動したりするケースは稀なのかもしれません。いずれにせよ、わたしたちは元気で充実した生活を送っています。お勉強に頭がついていかない日もありますが、学友同士支えあう体制もできています。残り半分の大学生活をわたしたちの人生の糧とすべく、日々精進して参る所存です。



2年生だより

歯学科2年 遠間 愛子

昨年を振り返ってみると、比較的自由な時間がたくさんあったのでいろいろなことに挑戦でき、充実した一年間でした。

まず、一年生の前期で特に印象的だった早期臨床実習Ⅰについて書きたいと思います。早期臨床実習Ⅰでは、グループに分かれて患者役実習、治療見学、付き添い実習を行いました。初めは白衣を着て病院に出ることとにかく緊張した覚えがあります。また、入学したばかりで歯科医療について全く知識がない状態だったので、体験することすべてが新鮮でした。特に患者役実習では六年生のご指導のもと、ペアの人とお互いにバキュームをしたり、印象をとったりして実践的なことを体験できました。また、付き添い実習では最初は患者様とどのように接したら良いかわからず戸惑うばかりだったのですが、回数を重ねることに慣れて、患者様から多くのことを学ばせていただきました。白衣を着ていると、例え学生であっても診療科の場所や歯学について聞かれたので、患者様からは自分も病院のスタッフの一員だと思われるんだという自覚が芽生えました。早期臨床実習Ⅰは一年生では唯一の専門科目でしたが、モチベーションが高まり二年生の専門科目が楽しみになるきっかけになりました。

ここで部活について書きたいと思います。私はバドミントン部に所属しています。私は高校時代もバドミントン部に入っていましたが、正直こんなに長くバドミントンを続けるとは思っていませんでした。入ってみると、優しい先輩方ばかりで和気あいあいとした感じでとても楽しいです。部活に入っていなかったら大学生活はこんなに楽しくなかったと思います。部活のことだけではなく勉強についても先輩方にとってもお世話になってい

ます。来年のデンタルで代替わりだと思うととても早いです。先輩方の結束力の高さを見習ってこれから後輩を引っ張って行けたらなあと思います。

これは歯学部とあまり関係のないことなのですが、私はダブルホームに所属しています。ダブルホームとは、文系・理系・医歯系の学生が学部を越えて集まり、グループつまりホームを作ってそれぞれの研究プロジェクトについて活動を行う取り組みです。私たちのホームは新潟県の東蒲原郡にある阿賀町に定期的に訪問し、地域の皆さんと交流などを行っています。ダブルホームにはもともと参加しようと思っていたわけではなく、たまたまじゃんけんで決まったことが入るきっかけだったのですが、今では本当に参加してよかったと思います。歯学部にいるとなかなか全学の学生や先生方と交流する機会がないので、ダブルホームを通じて本当に貴重な体験をさせていただいていると思います。活動拠点が主に五十嵐キャンパスなので今年度はなかなか参加できずにいるのですが、できる限り続けていきたいです。

二年生になってみると、まず一年の時とのギャップに驚きました。特にびっしり時間割が埋まっていてほぼ毎回同じ教室で講義が行われることです。なんだか大学って感じがしないなあと思いましたが、今では座る位置も指定席のように決まり、仲間がいてアットホームな雰囲気です。専門科目は学ぶ量がとても多く試験前は毎回苦戦しています。しかし自分の興味のあることなので勉強していておもしろいです。これから夏休み後に山場が来るので頑張ってお事に乗り越えたいと思います。

こうして改めて自分の大学生生活を振り返ってみると、一年間は本当に早いものでした。これからもこの調子で時間が過ぎていくと六年間はあっという間だと思います。だからこそこれからの時間

を大切にしていっつも多くのことを吸収していきたいです。まだ二年生ということもあり時々先が見えなくなることもありますが、一步一步着実に自分自身成長していきたいと思っています。

